

いつまでも  
灯ともしてほしい活動

登別婦人会は、戦後ようやく安定の  
きざしが見え始めた昭和27年、郷土を  
明るく住みよいまちづくりをと、登別  
市ではいち早く結成され、昨年10月、  
結成50周年記念式典を会員一同で祝い  
ました。

当時、物のない時代で、資金集めに  
は、会員自ら三味線や踊りを習ってに  
わか役者になり、演芸大会を開いたり、  
古紙回収に回ったり、資金集めに奔走  
した日々でした。そして、特に働く婦  
人のために保育所開設の署名運動、実  
現した時の喜びなど大変な時代でした。  
登別もまちづくりに積極的な取り組  
みが進められておりますが、私たちの  
果たす役割も、また新しい時代に向け  
て地域活動を通じて進めて行かなけれ  
ばならないと思っております。

長く続いてきたこの婦人会の灯火ともしびを  
いつまでも灯ともして欲しいものと  
心に念じております。

(登別東町／坂本トシ子さん)

私と『おやじの会』

私を含めて多くの父親が、今まで子  
どものしつけや教育を母親と学校まか  
せであったことを反省し、父親の役割  
をもう一度見直し、家庭や学校、地域  
でできることから行動を起して行こう  
と始まった『幌別中学校おやじの会』  
が、結成されて7年目になりました。

前略2002年の私

登別のブランド品  
誕生に向けて



新川町／24歳 久保光弘さん

札内高原館は、登別のブランド品誕生に向け  
て、地元で生産される牛乳を使ったチーズやア  
イスクリューム、畜産物を使ったウインナーソー  
セージなどの肉製品の加工研究を行っています。

私は、今年の10月からこの高原館で、主にソー  
セージ作りを中心に取り組んでいます。最初は  
何も分からず、試行錯誤の繰り返しで、どのよ  
うにすれば良いかなど考えもせず、ただただ夢  
中で作り、ボソボソとした失敗作のソーセージ  
ばかりができてしまいました。

失敗を繰り返さないために肉の性質、特徴な  
どを勉強しているうちに、だんだんとソーセージ  
独特の歯ごたえが出せるようになり、作る意  
欲もわくようになってきました。

モニターのみなさんから私が作ったソーセージ  
を美味しいと言っていた時はうれしく、も  
っと良いものを作ろうと思いました。

高原館では、ソーセージ作りの体験学習も行  
っていますが、最初は緊張して、思い通りに説  
明できず、大変苦労しました。今では、何とか  
うまくこなせるようになり、お客様と会うこと  
が楽しくなるようにまできました。

今の仕事を全くの素人でスタートしましたが、  
私は、今では安定した味も出せるようになりました。  
今年は、もっともっと勉強して、私の作  
ったソーセージがお客様から美味しいといわれ  
るように頑張りたいと思っています。

2002年は、市民のみなさんも札内高原館に足  
を運んでください。



学校崩壊や幼児虐待、不登校と昨年  
も子どもたちを取り巻く環境は厳しい  
ものでした。そんな中、私たち『おや  
じ』は、学校の環境整備活動やふれあ  
い農園、学校祭のおやつセットの製作・  
販売など、地域や学校への協力を進め  
てきました。

時代の流れ

おやじの輪を拡大すべく、昨年10月  
には、幌別中学校おやじの会が実行委  
員なり『胆振おやじサミット』を開催。  
胆振管内から130名のおやじたちが集ま  
り、おやじパワーの交流を図ることで  
自信をつけることができました。  
今年も、サミットが各地のおやじ魂  
を揺り起こす起爆剤として、おやじの  
会の輪がどんどん広がり、楽しく連携  
していくことができると思っています。  
(中央町／吉田武保さん)

やがて庭の枯れ木に雪の白い花が咲  
き、真っ白い銀世界と共に新しい年が  
明けて2002年を迎えることができ  
て、今年も元気で暮らそうと思っていま  
す。しかし、最近の世の中はなんとな

く変わったのか、周りが早いのか、そ  
れについていくのが大変で頭の切り換  
えが大変です。  
昔、『明治は遠くなりにけり』とい  
う言葉がありました。それは時代と  
共にいろいろ変わったからでしょうが、  
今はまさに『昭和は遠くなりにけり』  
と思いたい、そんな忙しい時代でも日  
中とは違い、真っ白い雪と寒さにもめ  
げず夜空の星は輝いて、とてもきれ  
いで静かな夜です。

時々見上げては自分なりに落ち着い  
た気分になってますが、今の世の中ど  
うなるのか、ついに自衛隊派遣になり、  
戦争から50年も経過した今、またと思  
う、そしてテレビや新聞をよく見て、  
世間においていかれないようにしてい  
こうと思っています。  
(新川町／佐藤愉喜子さん)